

病虫害発生予察特殊報 第 2 号

作 物 名 : イネ
害 虫 名 : イネカメムシ
学 名 : *Niphe elongata*

1 発生確認経過

令和 8 年 9 月下旬、県南部の一部地域の予察灯※において、イネカメムシ成虫の可能性のある個体を確認した。当該個体について農林水産省名古屋植物防疫所が同定した結果、イネカメムシであることが確認された。

また、10 月 16 日にイネカメムシが確認された予察灯周辺の水田ですくい取りを実施した結果、2 ほ場で成虫 3 頭及び幼虫 1 頭を確認した（写真 1、写真 2）。

イネカメムシは近年、全国的に発生地域を拡大しており、令和 8 年 10 月 16 日現在、37 都府県で発生が確認されている。

本県においてもイネカメムシが確認されたことから、今後は本カメムシによる被害が懸念される。

※害虫の発生状況を継続的に把握するため、夜間に光で昆虫を誘引・捕獲する調査装置

2 被害の特徴

イネカメムシは、籾の基部を吸汁加害することにより基部斑点米（写真 3）を発生させるほか、出穂期に籾を加害することで不稔籾の発生を引き起こす。

本種はイネに対する選好性が高く、防除が適切に実施されていないほ場や、周辺ほ場と比較して出穂期が著しく早い、または遅い品種を栽培するほ場では、集中的な加害を受ける場合がある。

特に、発生密度が高く適期防除が行われなかった場合には、斑点米の増加や不稔籾の発生により品質低下及び収量減少が顕著となり、大幅な減収につながる恐れがある。

3 防除対策

（1）情報の収集

長野県農業試験場病虫害防除部等が発表する発生予察情報など、本種の発生及び防除に関する情報を随時確認し、地域内での発生状況の把握に努める。

（2）本年の対策

イネカメムシの発生が確認された地域では、被害実態を把握するため、発生ほ場及び周辺ほ場において虫体の発生状況や、基部斑点米を含む斑点米の発生状況を調査する。

また、収穫物及びライスセンター等の篩下を活用し、被害発生状況の把握に努める。

（3）次年度以降の対策

ア ほ場内への初期侵入の把握

イネカメムシは、他の斑点米カメムシ類と比較してイネに対する選好性が高く、水田へ集中的に侵入する傾向がある。このため、定期的にはほ場内を観察し、侵入初期の発生確認に努めることが重要である。特に、出穂期前後には水田内の発生状況を確認し、早期発見及び適期防除に努める。

イ 出穂期の防除

イネカメムシの発生量が多く被害が懸念される地域では、不稔籾の発生を防止するため、出穂期に合わせた計画的な防除を実施する。また、それ以外の地域においても、発生密度が高い場合は出穂期の防除を実施することが望ましい。

ウ 防除後の確認

防除後も継続しては場内を観察し、再侵入や残存個体による加害の有無を確認する。

エ 無人航空機による防除

イネカメムシは昼間に株元へ潜むことが多いため、無人ヘリコプターやドローンによる薬剤散布では、薬剤が株元まで十分到達するよう散布条件を調整する。

オ 追加防除

イネカメムシは不稔稲の発生に加え、斑点米の原因にもなるため、発生量が多い場合には、斑点米の発生防止を目的として出穂期以降も追加防除を実施する。

カ 薬剤抵抗性対策

同一系統薬剤の連用を避け、作用機構の異なる薬剤をローテーション使用する。

キ ミツバチへの配慮

薬剤散布の際は、地域の養蜂家へ事前に防除予定日を周知し、ミツバチの活動が活発な時間帯を避けて散布する。

4 その他

イネカメムシが疑われる個体を見つけた場合は、農業試験場病害虫防除部または最寄りの地域農業農村支援センターへ連絡する。



写真1 イネカメムシ（成虫）

【イネカメムシ（成虫）の特徴】

体長は約 13mm

やや細長い体型

色は黄褐色

背部両側にやや白色の帯



写真2 イネカメムシ（幼虫）

【イネカメムシ（幼虫）の特徴】

淡緑色でやや細長い体形

頭部が前方に突出

触角が長い

成長すると褐色の斑紋



写真3 基部斑点米（提供 農研機構）※禁無断転載

【基部斑点米の特徴】

イネカメムシの吸汁により発生

米粒の付け根に被害

発生が多いと品質低下の原因

（問合せ先）

担 当 病害虫防除部

電 話 026-248-6471

ファクシミリ 026-248-6473

電子メール bojo@pref.nagano.lg.jp